

## 安全データシート

## シクロペンタノン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

|          |                           |
|----------|---------------------------|
| 製品名      | : シクロペンタノン                |
| CB番号     | : CB8709022               |
| CAS      | : 120-92-3                |
| EINECS番号 | : 204-435-9               |
| 同義語      | : シクロペンタノン, シクロペンタノン, 99% |

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

|          |                      |
|----------|----------------------|
| 関連する特定用途 | : 医薬品、殺虫剤、ゴム薬品の合成中間体 |
| 推奨されない用途 | : なし                 |

## 会社ID

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 会社名 | : Chemicalbook      |
| 住所  | : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟 |
| 電話  | : 400-158-6606      |

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

## 物理化学的危険性

火薬類 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

引火性液体 区分3

可燃性固体 分類対象外

自己反応性化学品 分類対象外

自然発火性液体 区分外

自然発火性固体 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

水反応可燃性化学品 分類対象外

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

酸化性液体 分類対象外

#### 健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 分類できない

生殖毒性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

皮膚腐食性・刺激性 区分外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分4

#### 環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 区分外

水生環境急性有害性 区分外

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

|       |       |
|-------|-------|
| GHS02 | GHS07 |
|       |       |

#### 注意喚起語

警告

#### 危険有害性情報

H319 強い眼刺激。

H315 皮膚刺激。

H226 引火性液体及び蒸気。

#### 注意書き

#### 安全対策

P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

P240 容器を接地すること / アースをとること。

P233 容器を密閉しておくこと。

P210 熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

#### 応急措置

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水 / シャワーで洗うこと。

#### 保管

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

#### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

### 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 化学物質・混合物の区別     | : 化学物質        |
| 化学特性(示性式、構造式 等) | : C5H8O       |
| 分子量             | : 84.12 g/mol |
| CAS番号           | : 120-92-3    |
| EC番号            | : 204-435-9   |
| 化審法官報公示番号       | : 9-2108      |
| 安衛法官報公示番号       | : -           |

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

#### 皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

#### 眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

#### 飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

ウォータージェットは使用しない。

適切な消火剤

粉末 乾燥砂

### 5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

### 5.4 詳細情報

未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。付近の発火源となるものを取り除く。蒸気がたまると爆発性濃縮物が生成されるので要注意。蒸気は低いところにたまる可能性あり。個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤(砂、土、珪藻土、パーミキュライト等)を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる(項目 13 を参照)。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。蒸気やミストの吸い込みを避けること。

## 火災及び爆発の予防

発火源から離しておいてくださいー禁煙。静電気の蓄積を防止する手段を講じる。

## 衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

### 保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 3: 可燃性液体

### 保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

# 8. ばく露防止及び保護措置

## 8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

## 8.2 曝露防止

### 適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

### 保護具

#### 眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

#### 飛沫への接触

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.3 mm

破過時間: 120 min

試験物質: Butoject® (KCL 897 / Aldrich Z677647, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法に

ついて許可を受けていると理解すべきではない。

#### 身体 の 保護

不浸透性衣服, 難燃静電気保護服。 , 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

#### 呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、多目的直結式 (US) または ABEK 型 (EN14387) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) または CEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

#### 環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

|   |                |
|---|----------------|
| 形状  | 液体             |
| 色   | 無色             |
| 臭い  | ペパーミント(はっか)類似臭 |
| pH  | データなし          |
| データなし   |                |
| データなし   |                |
| データなし   |                |
| データなし   |                |
| データなし   |                |
| log P=0.24 (推定値) : HSDB (2003)  |                |
| エタノール、エーテル : 可溶 : 有機化合物辞典 (1985)  |                |
| 水 : 9.177g/L (25°C) : IUCLID (2000)   |                |
| 0.94869 (20°C) : HSDB (2003) 0.9487g/cm <sup>3</sup> (20°C) : Lide (88th, 2008) |                |
| データなし   |                |
| 2.3 : Sax (11th, 2004)  |                |
| 11.4mmHg (25°C) : SRC (2009)  |                |
| データなし   |                |
| データなし   |                |
| 430°C : ホンメル (1996)   |                |
| 26°C (密閉式) : IUCLID (2000)  |                |
| 130.6°C : Merck (14th, 2006)  |                |
| -58.2°C : Merck (14th, 2006)  |                |

#### 融点・凝固点

-58.2°C : Merck (14th, 2006)

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

130.6°C : Merck (14th, 2006)

#### 引火点

26°C (密閉式) : IUCLID (2000)

#### 自然発火温度

430°C : ホンメル(1996)

#### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

#### 爆発範囲

データなし

#### 蒸気圧

11.4mmHg (25°C) : SRC (2009)

#### 蒸気密度

2.3 : Sax (11th, 2004)

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

#### 比重(密度)

0.94869 (20°C) : HSDB (2003) 0.9487g/cm<sup>3</sup> (20°C) : Lide (88th, 2008)

#### 溶解度

エタノール、エーテル : 可溶 : 有機化合物辞典 (1985)

水 : 9.177g/L (25°C) : IUCLID (2000)

#### オクタノール・水分配係数

log P=0.24 (推定値) : HSDB (2003)

#### 分解温度

データなし

#### 粘度

データなし

#### 粉じん爆発下限濃度

データなし

#### 最小発火エネルギー

データなし

#### 体積抵抗率(導電率)

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

熱、炎、火花。

### 10.5 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類, 強還元剤

### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットのLD50値 1200 mg/kgおよび2700 mg/kg (JECFA (2003)) に基づき、危険性の高い方の区分4とした。

#### 経皮

ウサギのLD50値、>5000 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づき、区分外とした。

#### 吸入

吸入(ミスト): データなし

吸入(蒸気): ラットのLC50値 19500 mg/m3(= 5668 ppmV) (RTECS (2006)) と報告されているが、ばく露時間が不明のため分類できないとした。なお、飽和蒸気圧濃度(15000 ppm)の90%以下のためミストがほとんど混在しない蒸気と考えられる。

吸入(ガス): GHSの定義における液体である。

### 皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた試験(OECD TG404)において皮膚一次刺激指数(PII)0.31で刺激性なし (IUCLID (2000)) の結果、ウサギに4時間適用した別の2試験ではPII 2.75および3.0でいずれも軽度の刺激性 (IUCLID (2000)) の結果に基づき、分類JISの基準による区分外(国連GHS分類の区分3または区分外に相当)とした。なお、EUではXi; R36/38(EU-Annex 1 (Access in July 2009))に分類されている。

### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた試験(OECD TG405)において、AOIが54.66(24時間)であり、強い刺激性(highly irritating)との結果(IUCLID (2000))に基づき、区分2Aとした。なお、EU分類では、Xi; R36(EU-Annex 1 (Access in July 2009))とされている。



## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性:データ不足。なお、ボランティア25名によるマキシマイゼーション試験で「感作性反応を示さなかった」(IUCLID (2000))と報告されているが、List 2の情報であり、陽性率や対照群のデータなど不明である。

呼吸器感作性:データなし

## 生殖細胞変異原性

in vivoの試験データが無く分類できない。なお、Ames試験(in vitro変異原性試験)において陰性の報告(JECFA (2003))がある。

## 発がん性

データなし

## 生殖毒性

ラットの器官形成期に経口投与した試験で、母獣、胚または胎仔に対する有害影響は認められなかった(JECFA (2003))。また、マウスの雌に28日間腹腔内投与した試験では、投与10日目に無投与の雄と交配した結果、受精能に影響がなかったと結論されている(JECFA (2003))が、ばく露が雌のみであり、かつ試験自体も1用量のみで動物数も8匹と少ないことから、分類のための証拠としては不十分と考えられる。したがって、性機能および生殖能に関してはデータ不足であり「分類できない」とした。

## 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

データなし

## 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットを用いた4~11週あるいは1~16週間の吸入ばく露試験において、嗅球の僧帽細胞への影響あるいは試験物質濃度と薬物代謝酵素との関係などが報告されている(IUCLID (2000))。しかし、標準的な反復ばく露試験ではないので試験項目も少なく、分類に必要な情報が得られない。したがって、データ不足のため「分類できない」とした。

## 吸引性呼吸器有害性

データなし

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

#### 魚毒性

半静止試験 LC50 - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - > 100 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

#### ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

止水式試験 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - > 100 mg/l

#### 椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

#### 藻類に対する毒性

止水式試験 ErC50 - *Desmodesmus subspicatus* (緑藻) - > 100 mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

#### 微生物毒性

止水式試験 EC50 - 活性汚泥 - > 1,000 mg/l - 3 h

(OECD 試験ガイドライン 209)

## 12.2 残留性・分解性

### 生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: > 99 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 301F)

## 12.3 生体蓄積性

データなし

## 12.4 土壤中の移動性

データなし

## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 12.6 内分泌かく乱性

データなし

## 12.7 他の有害影響

非該当

オゾン層への有害性

データなし

---

# 13. 廃棄上の注意

## 13.1 廃棄物処理方法

### 製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却するが、この物質は引火性が高いため点火には特に注意を要する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

# 14. 輸送上の注意

## 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): 2245 IMDG (海上規制): 2245 IATA-DGR (航空規制): 2245

## 14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制): Cyclopentanone

IMDG (海上規制): CYCLOPENTANONE

ADR/RID (陸上規制): CYCLOPENTANONE

## 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): 3 IMDG (海上規制): 3 IATA-DGR (航空規制): 3

#### 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): III IMDG (海上規制): III IATA-DGR (航空規制): III

#### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制): 非該当

#### 14.6 特別の安全対策

なし

#### 14.7 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類, 強還元剤

---

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

### 消防法

第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

### 船舶安全法

引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)

### 航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

### 港則法

危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ホ)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

## 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
pageID=0&request\_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。